

月例経済報告（2022年5月）

● 月例経済報告（5/25）

基調判断	(5月) 景気は、<u>持ち直しの動きがみられる</u>。 感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、<u>中国における感染再拡大の影響やウクライナ情勢の長期化などが懸念される中で、供給面での制約や原材料価格の上昇、金融資本市場の変動等</u>による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。 (4月) 景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直しの動きがみられる。感染対策に万全を期し、経済社会活動が正常化に向かう中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに十分注意する必要がある。また、感染症による影響を注視する必要がある。
個人消費	(5月) このところ持ち直しの動きがみられる。 (4月) このところ持ち直しの動きがみられる。 消費総合指数と実質総雇用者所得
設備投資	(5月) 持ち直しの動きがみられる。 (4月) 持ち直しの動きがみられる。 製造業・非製造業の設備投資(名目額)
住宅建設	(5月) <u>おおむね横ばいとなっている</u>。 (4月) このところ弱含んでいる。 住宅着工戸数(季節調整値)
雇用情勢	(5月) <u>持ち直しの動きがみられる</u>。 (4月) 感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等に持ち直しの動きもみられる。 雇用者数、就業者数の推移

生産	(5月) 持ち直しの動きがみられる。	鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100) このグラフは、2009年7月から2022年4月までの鉱工業生産、出荷、在庫、および在庫率の推移を示しています。左軸は生産と出荷（目盛右）で70から120、右軸は在庫と在庫率（目盛右）で80から160の範囲で表示されています。生産と出荷は概ね同様の動きを示し、在庫は比較的安定しています。在庫率は生産と出荷の差によって変動しています。															
	(4月) 持ち直しの動きがみられる。																
輸出	(5月) おおむね横ばいとなっている。	地域別輸出入数量指数 ①輸出 (2015年=100) このグラフは、2008年9月から2022年4月までの地域別輸出数量指数を示しています。左軸は全体と地域別（アジア、EU、アメリカ）で50から180の範囲で表示されています。右側のボックスには、4月と3ヶ月移動平均（3MA）の増減率が示されています。 <table><tr><th>地域</th><th>4月</th><th>3MA</th></tr><tr><td>全体</td><td>▲3.1%</td><td>▲0.5%</td></tr><tr><td>アジア</td><td>+0.2%</td><td>▲1.1%</td></tr><tr><td>アメリカ</td><td>▲4.6%</td><td>+3.3%</td></tr><tr><td>EU</td><td>▲4.0%</td><td>+1.6%</td></tr></table>	地域	4月	3MA	全体	▲3.1%	▲0.5%	アジア	+0.2%	▲1.1%	アメリカ	▲4.6%	+3.3%	EU	▲4.0%	+1.6%
	地域		4月	3MA													
全体	▲3.1%	▲0.5%															
アジア	+0.2%	▲1.1%															
アメリカ	▲4.6%	+3.3%															
EU	▲4.0%	+1.6%															
(4月) おおむね横ばいとなっている。																	
国内企業物価	(5月) <u>上昇</u> している。	企業物価の推移 (2015年=100) このグラフは、2008年9月から2022年4月までの国内企業物価、輸入物価、および輸出物価の推移を示しています。左軸は輸入物価と輸出物価（目盛右）で93から115、右軸は国内企業物価で70から150の範囲で表示されています。国内企業物価は、輸入物価と輸出物価の動きと連動しています。															
	(4月) このところ上昇している。																
消費者物価	(5月) このところ <u>上昇</u> している。	消費者物価の推移 (2020年=100) このグラフは、2010年4月から2022年4月までの消費者物価の推移を示しています。左軸は生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合、および総合で93から102の範囲で表示されています。右側のボックスには、4月と3ヶ月移動平均（3MA）の増減率が示されています。 <table><tr><th>項目</th><th>4月</th><th>3MA</th></tr><tr><td>生鮮食品を除く総合</td><td>▲0.2%</td><td>▲0.1%</td></tr><tr><td>生鮮食品及びエネルギーを除く総合</td><td>▲0.1%</td><td>▲0.1%</td></tr><tr><td>総合</td><td>▲0.1%</td><td>▲0.1%</td></tr></table>	項目	4月	3MA	生鮮食品を除く総合	▲0.2%	▲0.1%	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	▲0.1%	▲0.1%	総合	▲0.1%	▲0.1%			
	項目		4月	3MA													
生鮮食品を除く総合	▲0.2%	▲0.1%															
生鮮食品及びエネルギーを除く総合	▲0.1%	▲0.1%															
総合	▲0.1%	▲0.1%															
(4月) このところ緩やかに上昇している。																	
海外経済	(5月) 世界の景気は、一部の地域において足踏みがみられるものの、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、中国での感染の再拡大やウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに留意する必要がある。また、感染の動向等を注視する必要がある。																
	(4月) 世界の景気は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が緩和される中で、持ち直している。先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、ウクライナ情勢等による不透明感がみられる中で、原材料価格の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による下振れリスクに留意する必要がある。また、感染の動向等を注視する必要がある。																